

2015 紀の国わかやま国体

第 70 回国民体育大会公開競技パワーリフティング

初の公開競技としての全国大会で木村琢磨選手表彰額 GET

2015 年 9 月 20, 21 日

文&グラフ 金谷貴 写真提供 物江毅

「いけ・いけ・もう少し・いった・いった・やった」セコンド一人興奮！

木村琢磨選手は当たり前の素振り、一応両手でハイタッチ、これで表彰台がほぼ確実
国体は 3 位と 4 位の落差が大きく、お土産 {素敵なお額 (?) に入った表彰状} を持って帰れる。
下記 (図-1) に示すとおり、4 位合田選手とベンチプレス終了時 52.5 kg 差をつけており
(270 kg 以上引かないと逆転不可能)、ほぼ 3 位以上が確定したデッドリフト 1 試技目の様子。
(安全策として 1 試技目 - 5 kg の変更もしていた)

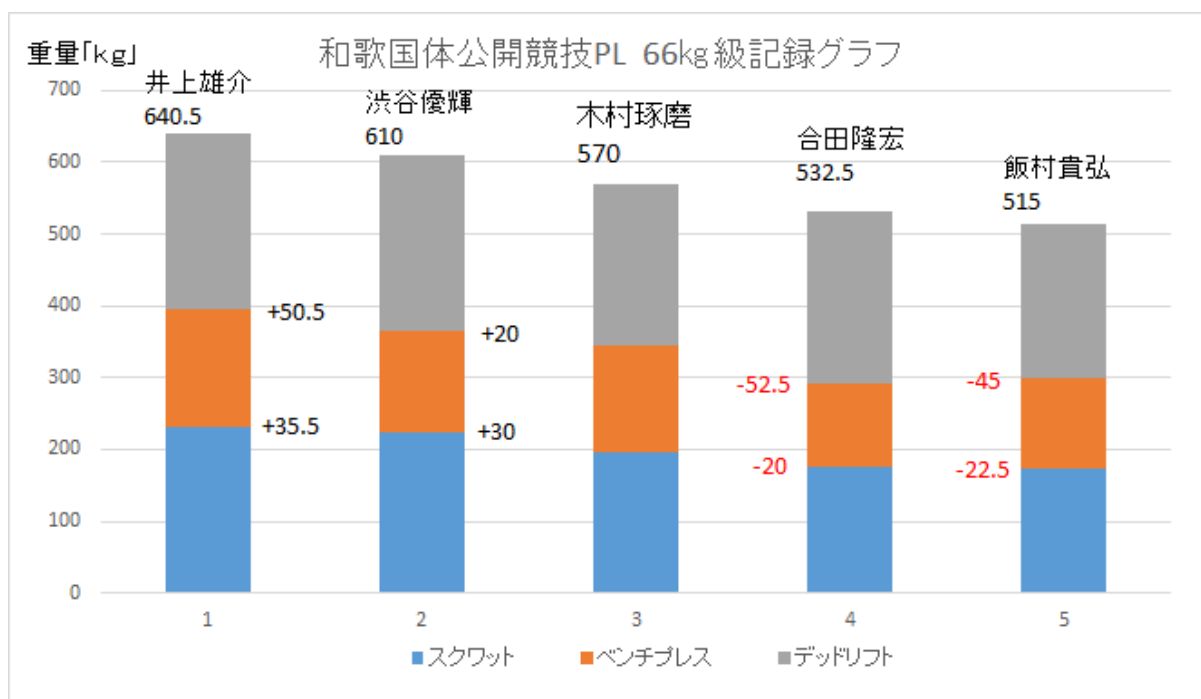


図-1

ライバル渋谷選手のスクワット第 3 試技 225 kg を成功され、更にベンチプレスの記録も 5 kg 伸ばされ苦しい展開、最終的に前回 (関東ブロック予選) より 30 kg 記録を伸ばされ惜敗した。「井上選手は強すぎる」との木村選手の弁。

待ちに待った公開競技昇格

将来のパワーリフターを生み出すべく、高校生枠の席が用意された。

開会式

監督と選手が都道府県別に高校生が持つ東京とかいたプラカードのあとへ続いて、ふと後ろを見ると野間口選手が TOKYO ユニホーム（今回のために用意した）を着て遠慮がちに立っていました。2人きりの開会式は寂しい。来年はもっと大勢で来よう。???

審判のスタート合図が掛からない、よってバーベルを持ちっぱなし、3秒後リプレイがかかり、再度間隔を空けずバーベルをスタート位置へ「スタート」「プレス」軽い「ラック」白3個、地力のあるところを見せつけた野間口志保選手。ベンチプレス2試技目しかし、下記（図-2）を見る限り上位4選手に差をつけられていました。スクワット終了時点では3位でしたので、今後に期待したいと思います。

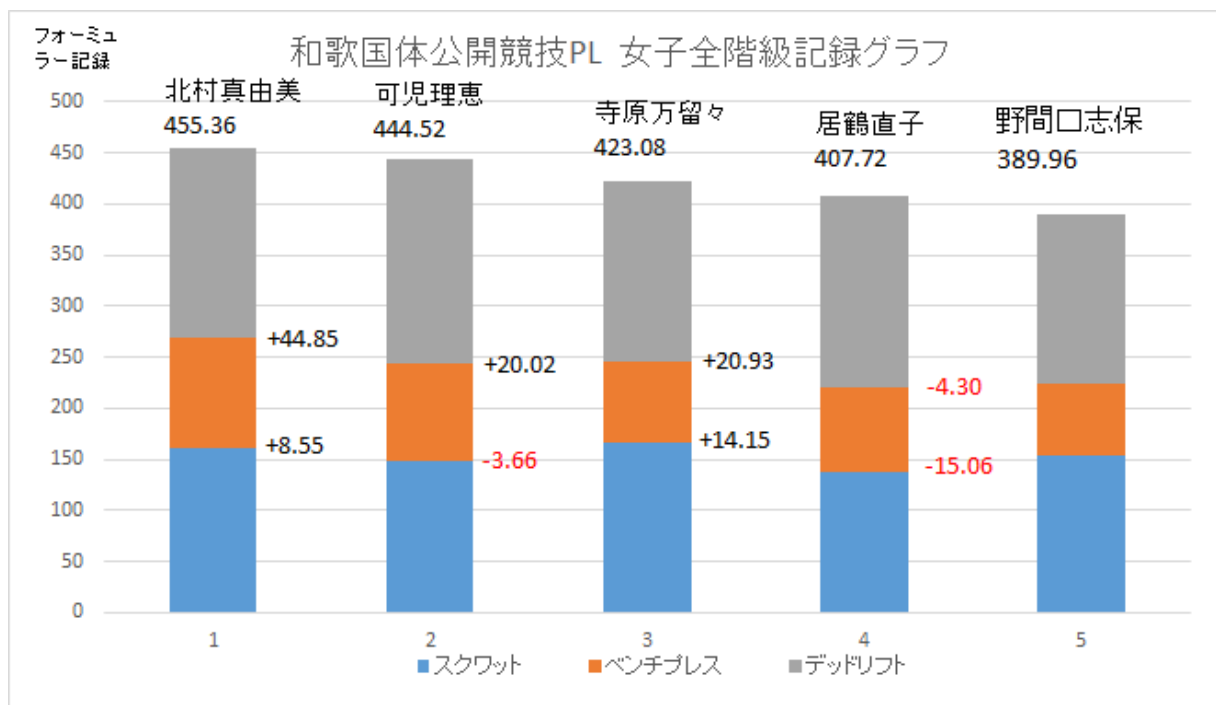


図-2

「いけ・いけ・もう少し・ああ〜」バーベルはそれ以上挙がらず下降して行ってしまった。これからかなりの試練があることを予感させる出来事だった。

横田正敏選手ベンチプレス2試技目。3試技目も挙がらず下記（図-3）に示すとおりその差は47.5kgと開いてしまった。デッドリフト1試技目で対：森選手40kg詰め差は7.5kg：福島勇輝30kg詰め差は17.5kg。しかし2人共余裕ある試技。2試技目 森選手との差7.5kgかわらず、福島選手との差12.5kgになったが更に苦しくなった。3試技目2人共成功ここで、3位狙いはやめて自己新に切り替えた。

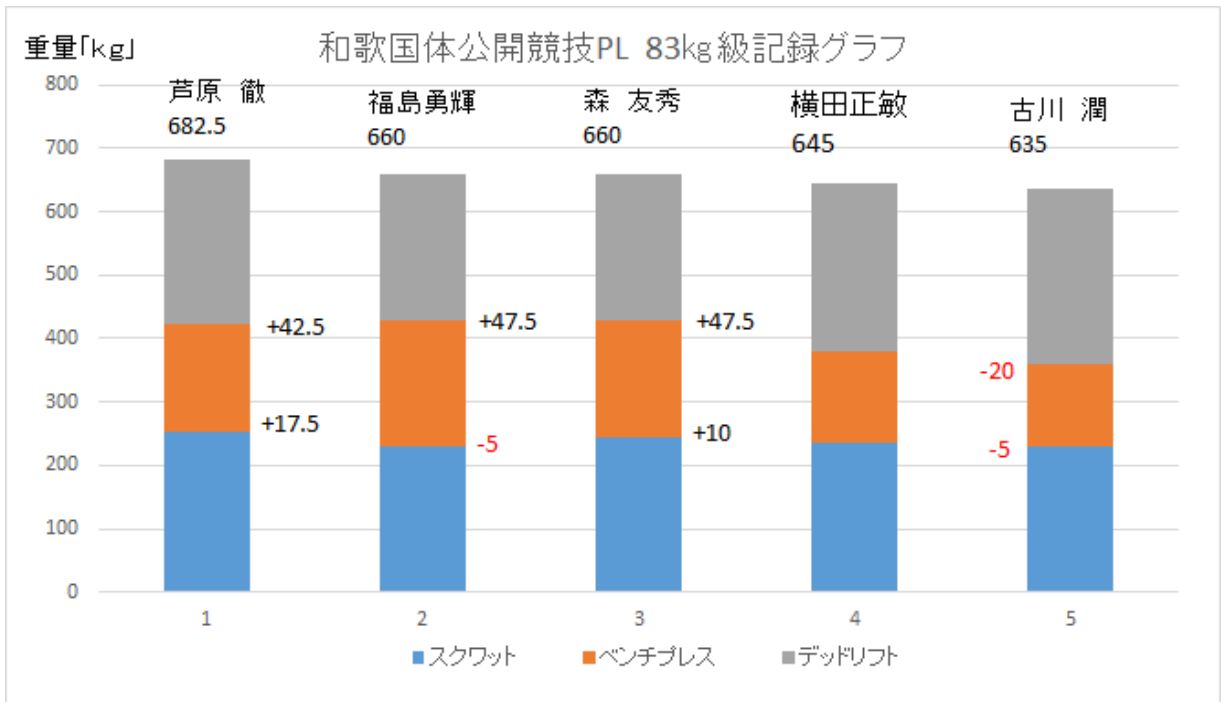
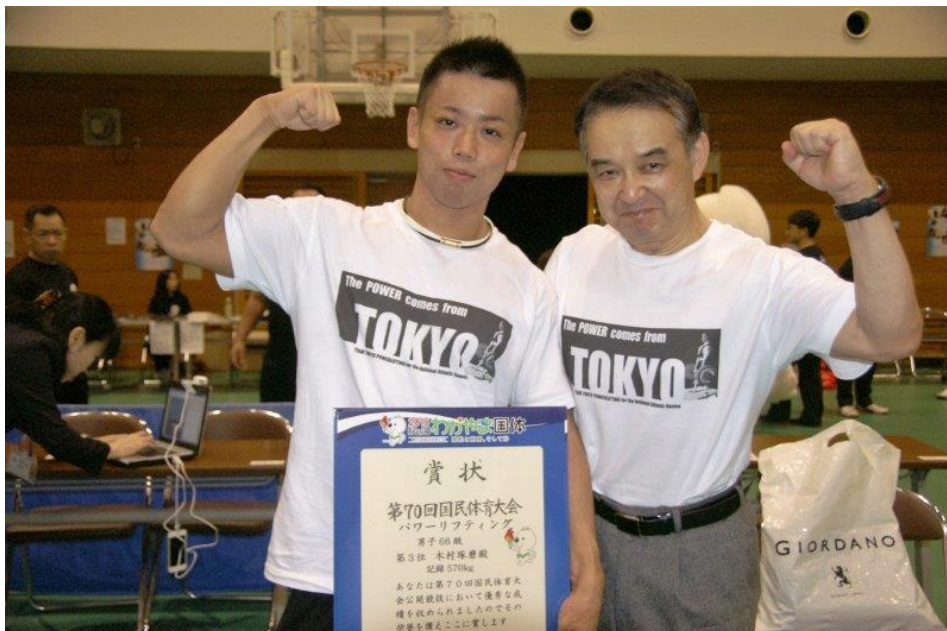


図 - 3

野間口選手・横田選手は健闘しましたが、あと一步のところまで表彰額を逃しました。監督の技量によるところがあったかもしりません、来年を期して更にご活躍を祈念致しております。



木村琢磨選手と監督



野間口志保選手



横田正敏選手